

様式3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数							非常 勤教 員	専任教員 一人あた りの在籍 学生数	備考	
	教授	准教 授	講師	助教	計	基準 数	うち 理 学 療 法 士 又 は 作 業 療 法 士 数				助手
作業療法 学科 昼間部	人	人	6人	人	6人	6人	6人	人	16人	20人	
計	人	人	6人	人	6人	6人	6人	人	16人	—	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
○	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼 任)
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	キリスト教概論	1	並木裕忠	兼任
		行動科学	1	西悠香	兼任
		医療情報処理 演習	1	並木秀樹	専任
		医療倫理学	1	金谷恵美	専任
		医学用語	1	野村哲朗	専任
		対人援助論	1	木口恵美子	兼任
		研究法	1	金谷恵美	専任
専門基礎 分野	人体の構造と機能 及び心身の発達	解剖学Ⅰ	1	町田志樹	兼任
		解剖学Ⅱ	1	町田志樹	兼任
		解剖学実習	2	木ノ瀬翔太	兼任
		生理学Ⅰ	1	小平健太郎	兼任
		生理学Ⅱ	1	小平健太郎	兼任
		生理学実習	1	小平健太郎	兼任
		運動学Ⅰ	1	中村浩	兼任
		運動学Ⅱ	1	中村浩・山田洋一	兼任
		運動学実習	1	山田洋一	兼任
		人間発達学	1	平賀千恵	兼任

専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学概論	1	関貴行	兼任
		リハビリテーション医学	1	中込慶太	兼任
		内科学	1	浦山修	兼任
		整形外科学	1	黒木光・木下修	兼任
		神経内科学	1	原誠・石原正樹・横田優樹	兼任
		精神医学	1	石渡香住	兼任
		小児科学	1	関野隆子	兼任
		予防・健康管理学	1	黒田晴美	兼任
		老年医学	1	浦山修	兼任
		臨床心理学	1	西悠香	兼任
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	1	眞々部仁美	専任
地域リハビリテーション学		1	浦田祐美子	専任	
専門分野	基礎作業療法学	作業療法概論	1	野村哲朗	専任
		基礎作業学	1	浦田祐美子	専任
		基礎作業学実習Ⅰ	1	野村哲朗	専任
		基礎作業学実習Ⅱ	1	並木秀樹	専任
		基礎作業学演習	1	正村好臣	専任
	作業療法管理学	作業療法管理学	1	野村哲朗	専任
	作業療法評価学	作業療法評価学概論	1	並木秀樹	専任
		身体機能評価学	1	正村好臣	専任
		精神機能評価学	1	並木秀樹	専任
		発達過程評価学	1	中込慶太	兼任
		高齢期評価学	1	正村好臣	専任
		高次脳機能評価学	1	眞々部仁美	専任
		生活活動評価学	1	浦田祐美子	専任

専門分野	作業療法評価学	作業療法評価学実習Ⅰ	4	正村好臣	専任
		作業療法評価学実習Ⅱ	2	眞々部仁美	専任
		作業療法評価学演習	4	浦田祐美子	専任
	作業療法治療学	作業治療学概論	1	浦田祐美子	専任
		身体機能作業治療学	1	眞々部仁美	専任
		精神機能作業治療学	1	並木秀樹	専任
		発達過程作業治療学	1	中込慶太	兼任
		高齢期作業治療学	1	眞々部仁美	専任
		高次脳機能作業治療学	1	野村哲朗	専任
		生活適応学	2	浦田祐美子	専任
		身体機能作業治療学実習Ⅰ	1	眞々部仁美	専任
		身体機能作業治療学実習Ⅱ	1	中込慶太	兼任
		精神機能作業治療学実習Ⅰ	1	並木秀樹	専任
		精神機能作業治療学実習Ⅱ	1	並木秀樹	専任
		発達過程作業治療学実習Ⅰ	1	中込慶太	兼任
		発達過程作業治療学実習Ⅱ	1	中込慶太	兼任
		高齢期作業治療学実習Ⅰ	1	浦田祐美子	専任
		高齢期作業治療学実習Ⅱ	1	金谷恵美	専任
		高次脳機能作業治療学実習Ⅰ	1	眞々部仁美	専任
高次脳機能作業治療学実習Ⅱ	1	眞々部仁美	専任		

専門分野	作業療法治療学	生活適応学実習	1	野村哲朗	専任
		臨床技術演習Ⅰ	1	並木秀樹	専任
		臨床技術演習Ⅱ	1	正村好臣	専任
		作業療法治療学演習	1	並木秀樹	専任
	地域作業療法学	地域作業療法学Ⅰ	1	浦田祐美子	専任
		地域作業療法学Ⅱ	1	野村哲朗	専任
	臨床実習	臨床見学			
		地域臨床見学			
		臨床評価実習			
		総合臨床実習Ⅰ			
総合臨床実習Ⅱ					
その他	総合統合演習Ⅰ	2	金谷恵美	専任	
	総合統合演習Ⅱ	4	正村好臣	専任	

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
○	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
地域臨床見学	1年後期	総合統合演習 I	1年前期
		基礎作業学演習	1年後期
臨床見学	1年後期	基礎作業学演習	1年後期

臨床評価	2年後期	作業療法評価学演習	2年通年
総合臨床Ⅰ	3年前期	作業療法治療学演習	3年前期
総合臨床Ⅱ	3年後期	作業療法治療学演習	3年前期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	学校関係者評価委員会
委員名（委員長）	手塚 雅之（委員長）・河野 達哉・木越 浩平・神田 幸洋・林 一斗・山本 富二・金谷 恵美・浦田祐美子・土居 大祐
組織の開催頻度	1年に3回実施
組織の取り組み内容	・委員による会議の開催
	・自己評価委員会及び教育評価委員会の意見、要望等を教員会で検討する
自己点検・評価結果の公表	H Pで公表（URL： https://www.shoei-reha.jp/ ）

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
○	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	教務部
	委員構成等	浦田祐美子・金谷 恵美・眞々部仁美・土居 大祐
	改善の仕組みの実際	毎月部会で改善内容を検討し、教員会で報告等を行なう

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

毎年、学生からの要望等のアンケート等の実施、各部会及び各委員会の結果を教員会で共有し、改善につながる様に協力して努めている。